

鎌倉市における戸別収集のあり方について方針（素案）の説明会概要

令和6年2月27日（火）10時30分から11時40分 深沢学習センター第6集会室

参加者9名

- 1 ごみ減量対策課担当課長挨拶
- 2 方針（素案）の説明
- 3 質疑応答

Q 集積所を掃除して、その後におしゃべりをするようなコミュニケーションは大事ではないか。

A コミュニティの場として機能している点はあるが、高齢化や共働き世帯の増加等によりクリーンステーション（以下、CSという。）の管理ができなくなっており、新しく引っ越してきた方の集積所調整などで町内会長が板挟みになっている現状がある。モデル事業時との違いは、ごみの減量だけが目的ではなく、社会情勢にあわせてCS負担を軽減するという目的もある。

Q 市民にもっとごみを減らさなくてはいけないということを知らせないといけないのでは。

A 減量のための啓発については、推進員を通じて各自治会に説明を行っている。場合によっては、生ごみ処理機を持っていき説明するなどしている。

Q もっと市民の意見を聞いてから打ち出すべきでは。こういう場をもつ前に、市民や環境団体に話を聞いたうえで提案をしているのか。

A 環境団体などには聞いていないが、地域での説明会などで意見を聞いている。

Q 鎌倉市は分別が多く、市民に負担がかかっている。高齢者でごみを出せない人のことを考えるのが第一ではないか。

A 分別をもっと簡単にできないか考えている。今は分別技術も進んでおり、たとえばカン・ビン、ペットボトルなどは風や磁選などで分別している。高齢者でごみ出しに苦慮されているようであれば、声かけふれあい収集があるので市にご相談いただきたい。

Q 共同住宅で一番問題であるのは4世帯～5世帯の小さい共同住宅である。共同住宅専用のCSを作らないために、近くのCSに黙って捨てるのだが、分別ができてないことからごみが残ってしまい結果として荒らされることになる。

A そうしたご負担を解消するために戸別収集を進めたいと考えている。戸別収集がはじまれば、そうした小さい共同住宅と一緒に使っていたCSがなくなることになる。戸別収集で排出者が明確になれば、不適正排出がわかった時に指導がしやすくなる。

Q 鎌倉市の場合、山の上に家があるケースなどがあるが、そこも戸別収集を行うのか。

A いろいろな状況があるが、道路に面した自宅敷地内に出していただくことを基本とする。

Q 藤沢市と比較すると、鎌倉市には山がある。必然的にコストが上がってくると思うが、本日のコストに関する説明はラフすぎる。実際はかなりコストが上がることになると思うが。

A 燃やすごみは3.2億円の増額となるが、収集経費全体で見ると+7千万円という試算となっている。

Q 戸別収集にしてもこれ以上ごみは減量しないのでは。

A 有料化をせずに戸別収集を実施している葉山町や平塚市の例を参考にしており、だいたい16%~17%の削減効果が出ている。モデル事業時は有料化なしで、10.7%の減量効果が出ている。そのため、現状として10%の減量効果を見込んでいる。

Q トータルのランドデザインが見えてこない。何年後に戸別収集がどうなっていくかを示してほしい。

A スムーズに進められる場合は、4月に審議会で答申を受け、5月に方針確定、6月議会に諮り、令和7年4月から一部エリアで燃やすごみの戸別収集を開始し、令和8年4月から全市を対象に実施する想定である。

Q ごみ処理場の問題は怎么样了のか。

A 名越クリーンセンターについては、鎌倉市・逗子市・葉山町の燃やすごみの中継施設になることになっている。そこで大型車に載せ替えて他に持っていくことになる。当初の間は、逗子市で燃やすごみを処理する。名越クリーンセンターの工事期間中は今泉クリーンセンターで中継を行う。名越クリーンセンターの中継施設整備後は、今泉クリーンセンターで生ごみ処理ができないかという話になっている。